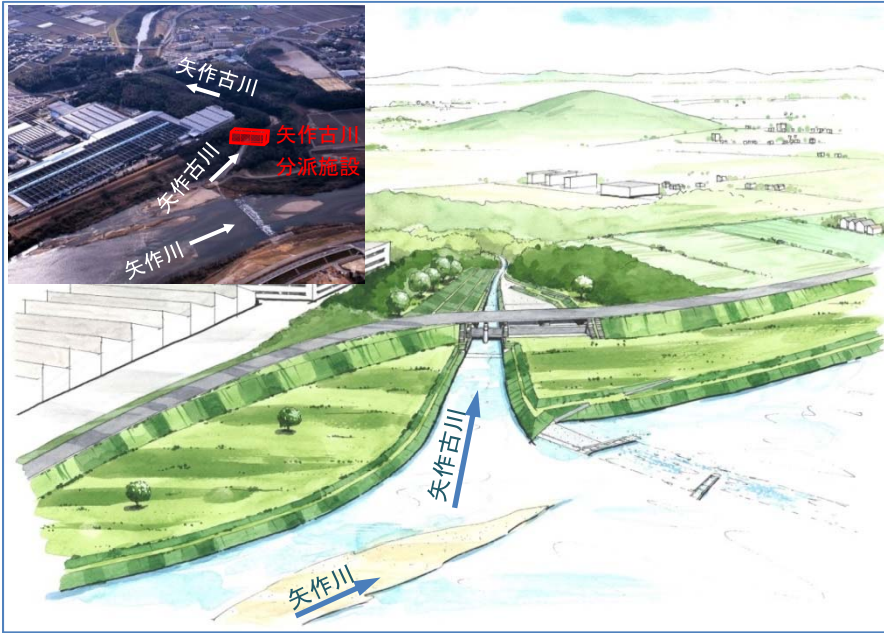


矢作川と矢作古川が適正に分流される施設を建設しています！

「平成12年9月東海豪雨」及び「平成20年8月末豪雨」により、矢作川支川の矢作古川流域において、大規模な浸水被害が発生しました。このため、矢作川が洪水の際に、矢作古川への適正な分派（計画分派量200m³/s）となるよう、施設を整備します。これにより、愛知県が実施している床上対策特別緊急事業と相まって、この地域の治水安全度が格段に向上します。

分派施設は平成27年度中の完成を目標として、現在工事を進めています。

矢作古川上流からみた分派施設の完成イメージ



現場技術者の声

私は現場で入社1年目の女性技術者として、矢作古川分派施設工事の安全管理・品質管理・環境管理に携わっています。

男性技術者よりも体力面では劣ってしまってもありますが、細かな部分への気配りができることが長所だと思います。

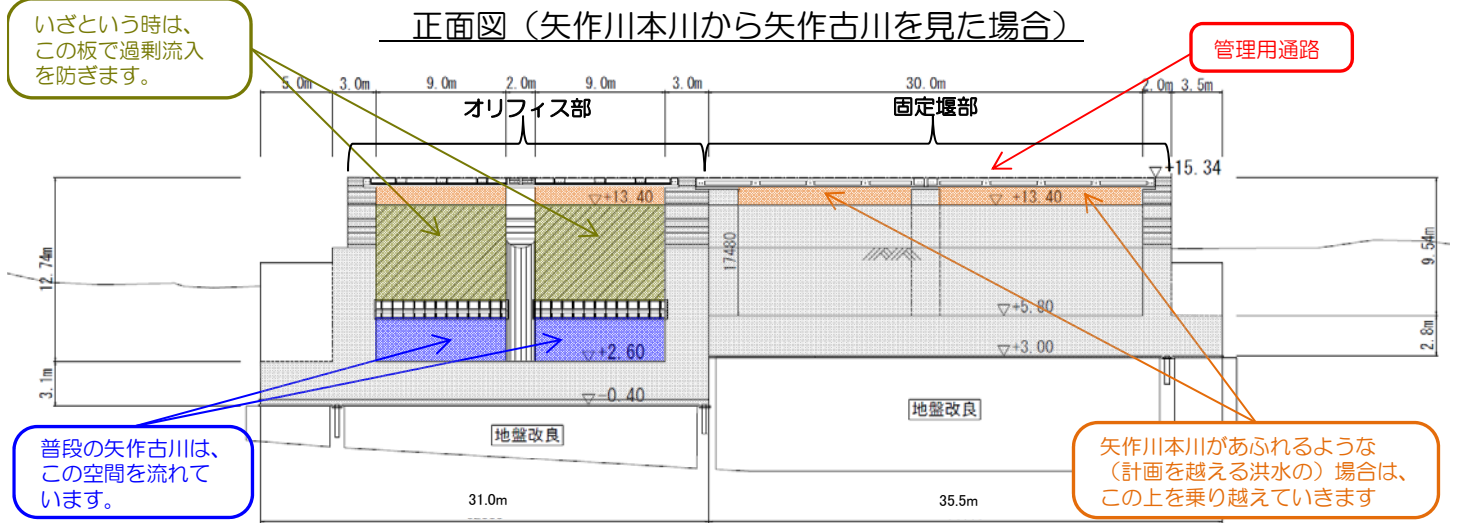
毎日体を動かして大変なこともあります。が、日々変わっていく現場を見ているのがとても楽しく、素晴らしく感じます。

これからも明るさと元気を生かして竣工に向けて日々奮闘していきます。

大成建設株式会社 山田



正面図（矢作川本川から矢作古川を見た場合）



出水時には分派量を200m³/sに抑制することができるオフィス形式を採用しています。
（オフィス形式：水路等に向けた開口部から水を放出する方法で、開口部の大きさで流出量の調整が可能）

■施工フロー



矢作古川分派施設の施工の変遷

H23.1時点（分派施設着工前）



H26.7時点（分派施設本体工基礎地盤整正）



H26.9時点（分派施設本体工地盤改良）

囲みの部分が回転して地盤内に入し、固化材料と地盤の土を攪拌して 強固な支持地盤を形成します。



H27.1時点（鉄筋組立）



H27.3時点（オリフィス部構築中）

